

予算常任委員会記録

1. 委員会を開催した年月日・時刻及び場所

令和8年3月16日(月) 議場
午後1時30分 開議 午後2時55分 休憩
午後3時15分 再開 午後3時40分 休憩
午後3時50分 再開 午後3時53分 閉議

2. 出席した委員の名簿

委員長	岡本佐市	(○)	
副委員長	稲安保	(○)	
委員	本吉典子	(○)	
〃	丸田一幹	(○)	
〃	松田義人	(○)	副議長
〃	備後克則	(○)	
〃	川口雅登	(○)	
〃	北川真知子	(○)	
〃	酒井一人	(○)	議長
〃	寺井哲也	(○)	
〃	櫻井英一	(○)	
〃	新田義昭	(○)	
〃	山本泰夫	(○)	
〃	浅野俊二	(×)	欠席

3. 傍聴した者 1名

4. 出席した説明員

川口副市長、八島教育長、山本総務部長、前田産業建設部長、政氏市民福祉部参事、北山秘書課長、山岸企画財政課長、木曾市民窓口課長、崎田まちづくり課長、安達災害復興推進室長、赤井地域包括ケア推進室長、蓮本こども課長、森田デジタル推進室長、保志場税務課長、木田会計管理者、中島教育次長、西村生涯学習課長、関軒企画振興室長、牧山文化財課長、廣島スポーツ推進室長、山本農林水産課長、寺井商工観光課長、野崎危機管理監、西野生活安全課参事、田中上下水道課長、岩本上下水道課参事、小林選挙・監査委員事務局長、清水こども課参事

5. 出席した事務局職員

事務局長 木村 繁成 事務局次長 野崎 直美 係長 澤田 朋子

6. 会議に付した議件

別紙付託表のとおり

7. 会議の概要

岡本委員長のあいさつにより会議を開く。以後、進行も行う。

次に、付託表に基づき執行部から説明が行われた後、休憩に入る。再会後、質疑・答弁が行われる。

終了後、採決に入り、付託案件 14 件を一括して採決することを諮ったところ、北川委員から異議があり、議案第 1 号から議案第 3 号の 3 件を切り分けて採決することを決定。その後、議案第 1 号から議案第 3 号を一括して採決し、賛成多数により、原案のとおり可決することを決定。次に、残った付託案件 11 件を一括して採決することを決定し、議案第 4 号から議案第 13 号及び報告第 1 号は、いずれも全会一致で可決または承認することを決定した。詳細は、別紙「委員会審査結果」のとおり。

次に、委員会における継続調査の申し出を議長に提出すること、併せて委員会報告については、委員長に一任することを決定する。

最後に、岡本委員長が閉会のあいさつをし、会議を閉じる。

8. 主な質疑・応答等

【付託案件に対する主な質疑・応答】

松田委員：庁舎等維持管理事業でマイナス 1,000 万円だが、令和 7 年度の予算の説明資料で、市庁舎災害対策強化事業に 3,500 万円を新規事業で計上し、災害対策本部として検討を行う、または調査対象の中で調査等を行うとの説明であった。つまり、2,500 万円の調査を実施したということか。

山本総務部長：これは、庁舎と防災機能を持たせるあり方検討を実施し、老朽化した庁舎の方と並行して進行中である。庁舎の外壁調査や給排水調査もあり方検討の中に含めることも考えたが、今後、基盤設計や実施設計で、どのみち実施しなければならぬので、今回は見送った。

松田委員：プロジェクトチームを作って災害対策本部のあり方検討をする旨の説明だったので、今後、あり方検討の結果を示してくれるのか。

山本総務部長：現在取りまとめ中なので、新年度になるが、今年度まとめたあり方検討について、説明する。

川口委員：最近地球温暖化や線状降水帯の影響で、被害が非常に多いが、防災備蓄品購入費の約 8,000 万円で、具体的な備品の内容やその保管方法、今後の計画を聞く。

野崎危機管理監：防災備蓄倉庫は、神子原、富永、すこやかセンター、体育館の 4 カ所と考えている。購入予定の備品は、最低限の生活を守るためのパーテーション、簡易ベッド、簡易トイレなど。発電機、ポータブル電源、ホットクーラー、ジェットヒーター、また、循環型シャワールームを一機購入する。

また、インターネット環境を災害時も使えるように衛星環境のスターリンクも 2 台購入予定である。

備後委員：270 万円の補正額が計上された市民提案型まちづくり支援事業には、市民の提案がまちづくりに貢献するという大きな目的がある。この事業の現状と、今後この事業をどのように広めていくのかをお聞きする。

崎田まちづくり課長：180 万円以上で、6 団体分の減額補正だが、団体の新しい取り組みに支援を行うが、アイデアが出にくくなってきたと考える部分もある。

次年度以降は、まちづくり支援事業もあるが、市民憲章推進基金と統合し、より

使いやすく運用しようと考えている。

備後委員：市民憲章推進基金は、どういう形で統合されるのか。

崎田まちづくり課長：所管は、生涯学習課になるが、詳細については、現在検討中である。

西村生涯学習課長：市民憲章推進基金の助成事業、市民提案型まちづくり支援事業、共に市民参画によるまちづくりの推進支援を図るものであり、両制度を統合し、羽咋市市民憲章推進基金の助成金として、次年度以降運用していく予定であり、今、現在、それに向けて要綱改正を行っている途中である。両者、今まであったものがなくなるわけではなく、両助成制度をそのままいかす形で運用していきたいと考えている

備後委員：両方の特性があるので、今、問題が指摘されたが、それを踏まえ、市民参画をどうやっていくか考えている市民もいるので、両方備えているとのこと、しっかり対応していただきたい。

櫻井委員：地域介護福祉空間整備事業で、認知症の高齢者グループホームの設置等の事業を未実施に伴う減額補正とのことだが、市法人双方の認識不足との説明であったが、その詳細をお聞きする。

赤井地域包括ケア推進室長：認知症型の介護事業所（グループホーム）で、家庭的な生活環境を整備している事業所施設、家に近いような施設で、ちょっとこじんまりした施設というのが特徴であり、少人数で生活をするもの。

その少人数のグループの単位がユニットという単位を使っている。調査の報告や県への報告をする際は、このユニットを使用する。

事業所も市も、2ユニット分を作りたいと、2ユニット分の申請を県に提出した。その後、県の要項を確認すると、ユニットではなく一施設ということで、たくさんユニットを作っても結局1施設分しか補助金対応できないとのこと、利益不足となり、法人から審査の辞退をしたいとの申し出があった次第である。

櫻井委員：わかりました。未実施だが、実際、また引き続き募集が必要。今後の計画は。

赤井地域包括ケア推進室長：計画では、グループホームや小規模多機能型の事業所を、目標に掲げており、来年も募集する。ただ、今年度は当初予算には計上していない。応募があれば補正対応をする。

北川委員：災害関連死が2名とのことだが、詳細は。

政氏市民福祉部参事：ご遺族からの承諾がある方は公表となっているが、経緯等は非公表である。70歳代の2名である。

北川委員：一般廃棄物収集事業で370万円の減額だが、羽咋市全体で一般ゴミが減っているのか。

西野生活安全課参事：一般廃棄物（燃えるゴミ）については、人口減少によりゴミの総量は減っているが、1人当たりのゴミの量に大きな変化はない。

令和8年第1回羽咋市議会定例会議案付託表

予算常任委員会

番 号	議案番号	議 件
1	議案第1号	令和8年度羽咋市一般会計予算
2	議案第2号	令和8年度羽咋市国民健康保険特別会計予算
3	議案第3号	令和8年度羽咋市後期高齢者医療特別会計予算
4	議案第4号	令和8年度羽咋市介護保険特別会計予算
5	議案第5号	令和8年度羽咋市千里浜財産区特別会計予算
6	議案第6号	令和8年度羽咋市水道事業会計予算
7	議案第7号	令和8年度羽咋市下水道事業会計予算
8	議案第8号	令和7年度羽咋市一般会計補正予算（第10号）
9	議案第9号	令和7年度羽咋市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
10	議案第10号	令和7年度羽咋市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
11	議案第11号	令和7年度羽咋市介護保険特別会計補正予算（第3号）
12	議案第12号	令和7年度羽咋市水道事業会計補正予算（第4号）
13	議案第13号	令和7年度羽咋市下水道事業会計補正予算（第4号）
14	報告第1号	令和7年度羽咋市一般会計補正予算（第9号）の専決処分の報告について